

月刊むし 586: 41-42. ISSN: 0388-418X

Morita, S. 1994. Notes on the Bembidiinae (Carabidae) of Japan VII. Records of Two Species of *Asaphidion*. Elytra 22(1): 72. ISSN: 0387-5733

池田 (2019b) に追加する東京都本土部のコツチバチの文献記録

Additional reference to Ikeda (2019b) about *Scolia decorata ventralis* in the
mainland of Tokyo

筆者は池田 (2019) でコモンツチバチ *Scolia decorata ventralis* Smith, 1873 の東京都本土部狛江市における記録を公表したが、須田博久氏からお手紙を頂き、東京都本土部のコツチバチとして 1932 年 8 月 13 日の立川市で記録がある (平山, 1933) ことが明らかになったのでここに記しておく。これで世田谷区の記録 (藤森, 2016) と合わせて 3 例が確認されたことになる。お手紙を頂いた須田氏には厚くお礼申し上げます。

引用文献

藤森健史. 2016. コモンツチバチの東京都世田谷区における記録. 神奈川虫報 188: 60. ISSN: 0288-3821

平山修次郎. 1933. 原色千種昆蟲圖譜. 三省堂, 東京.

池田健一. 2019. 東京都本土部におけるコモンツチバチとオオモンツチバチの記録. 月刊むし 585: 59-60. ISSN: 0388-418X

兵庫県におけるヤマフジハフクレフシの記録と国内分布文献記録

A Record of gall of *Wisteria floribunda* formed by Cecidomyiidae (Yamafuji-

Hafukurefushi) in Hyogo Prefecture and literature distribution records in Japan

ヤマフジハフクレフシは、フジ *Wisteria floribunda* (Willd.) またはヤマフジ *W. brachybotrys* Siebold et Zucc. の葉の両面に形成され、半球形で、表面は平滑で黄緑色～緑褐色を呈する虫こぶで、未同定のタマバエ科幼虫に形成されることが知られている (中渡瀬, 1992; 湯川・榊田, 1996)。池田 (投稿中) で当初兵庫県内の記録として報告する予定で文献を収集していたが、調査の過程で未報告虫こぶであることが判明し、ヤマフジハフクレフシの国内文献記録は含めないことにした。しかし、現在県ごとの本虫こぶの分布状況は公表されていないと思われるので、ここに報告しておく。湯川・榊田 (1996) 及び筆者が確認する限り、岩手県 (門前, 1929)、埼玉県 (巢瀬, 1986)、神奈川県 (牛山ら, 1997)、兵庫県 (井手, 1928)、宮崎県 (湯川ら, 2012 の整理)、大分県 (湯川・榊田, 1996)、鹿児島県 (湯川, 1979; 湯川, 1988; 中渡瀬, 1992) で記録を確認した。

付記

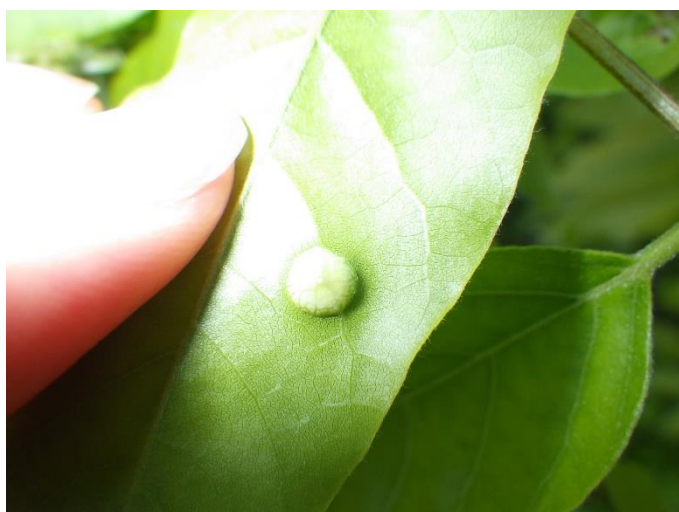


図 5 兵庫県のヤマフジハフクレフシ

(1928) で神戸市の記録があるが、詳細地点不明で虫こぶ名はない記録でかなり古いものである。

本稿執筆後、本虫こぶを 2017 年 5 月 5 日 18 時頃に兵庫県神戸市西区井吹台西町井吹台谷口公園のフジの葉下面で撮影していたことが明らかになったので、追加して報告する (図 5)。

1 虫こぶ, 兵庫県神戸市西区井吹台西町井吹台谷口公園, 5.V.2017, 筆者撮影

県内では上記の通り井手

引用文献

- 井手清治, 1928. 鹿児島県及び神戸産虫癭目録. 博物同志會會報, 1: 54-57.
- 池田健一, 投稿中. 井吹台谷口公園の昆虫類と虫こぶ (付録: 神戸市の虫こぶの文献記録). きべりはむし ISSN: 1884-9377
- 門前弘多, 1929. 蟲癭の研究. 齋藤報恩會事業年報, 5: 295-368. DOI: 10.11501/1120468
- 中渡瀬亜紀, 1992. ヤマフジの葉に形成されるタマバエの虫えい. 鹿児島県立博物館研究報告, 11: 5-8. ISSN: 0915-9010
- 巢瀬司, 1986. 北本市石戸宿の虫えい. 寄せ蛾記, 48: 743-744. ISSN: 0917-5695
- 牛山欽司・高橋和弘・深山陽子, 1997. 神奈川県におけるフジ (*Wisteria floribunda* (Willd.) DC.) を寄主とするタマバエ 2 種の発生生態. 関東東山病害虫研究会年報, 44: 291-294. ISSN: 0388-8258
- 湯川淳一, 1979. 高隈演習林および佐多地方で採集されたタマバエのゴール. 鹿児島大学農学部演習林報告, 7: 85-89. ISSN: 0389-9454
- 湯川淳一, 1988. 鹿児島県のタマバエゴール (双翅目: タマバエ科). *Satsuma*, 37: 175-205. ISSN: 0910-5131
- 湯川淳一・笹富広一郎・佐藤信輔・松尾和典・藤井智久, 2012. 宮崎県小林市岩瀬川渓谷で採集された虫えい形成タマバエ類. まくなぎ, 24: 1-12. ISSN: 0917-4710
- 湯川淳一・柘田長, 1996. 日本原色虫えい図鑑, 826pp. 全国農村教育協会. 東京. ISBN: 9784881370612

屋久島におけるケブカカスミカメの初記録

First record of *Tinginotum perlatum* in Yakushima

ケブカカスミカメ *Tinginotum perlatum* Linnavuori, 1961 は西日本に広く分布しており、幼虫はイシカグマ、イブキビヤクシン、リュウキュウマツなど、広範な植物から見いだされており、成虫は紀伊半島では春先にカエデの花、八重山ではトベラやエゴノキの花で確認された例がある (安永ら, 2001)。温帯域では少なくとも年 2 回発生しており、成虫越冬し、冬期には林床のシダ類や雑草のほか、倒木上にたまった落ち葉の下